

山形大学広報誌

# みどり樹

Yamagata University Quarterly Magazine

Midori gi

vol.34  
Winter 2007



特集

山形発のライセンス  
「星空案内人資格制度」で  
星のソムリエを養成。

研究室訪問／人文学部

日本近代文学の行間を読む。

# 小さな天文台から全国へ 山形発のライセンス 「星空案内人資格制度」で 星のソムリエを養成。

お月見、七夕、神話、星占い……、私たち人間は、  
太古の昔から壮大な宇宙に対してロマンやあこがれ、畏敬の念を抱いてきた。

多くの人が、さまざまな思いを胸に  
星空を見上げることが多いのではないだろうか。  
そんな星空のことをもっと知りたいというすべての人のために  
一般開放されているのが、山形大学理学部の屋上にある「やまがた天文台」。  
老若男女を神秘的な星空の世界へと誘ってくれる。



## 天文台ではどのくらい見えるの？

携帯電話で撮影した月の画像。  
天文台ではこのくらいよく見える。  
月までの距離は約38万km。  
やまがた天文台の望遠鏡で見ると  
月上空2000kmまで近づいて  
見ているように見える。月面の  
クレーターは迫力満点。

## 市民のための 「やまがた天文台」

山形大学理学部の屋上にある「やまがた天文台」は、大学とNPO法人「小さな天文学者の会」が共同で運営している新しいタイプの天文台です。学びと研究の拠点として最新の宇宙研究が繰り広げられているのと同時に、だれもが親しみやすく宇宙について学べる場にもなっています。「星空には興味があるけれど、天文学というとなんだか難しそう」と敬遠していた人々にとっては、格好の入り口となることでしょう。

この天文台がどのように市民に開放されているかというと、まず、毎週土曜日の夜には、天文台ガイドツアーが実施されており、一般の人々に星空を案内しています。数名のグループに1~2名の星空案内人(星空の魅力を人々に伝える有資格者、次項に詳しく紹介)がついて、天体の説明をしながら実際に望遠鏡や双眼鏡で観察させてくれるのです。また、毎月最終土曜日には、観る者を宇宙空間へと誘う4次元宇宙シアターが上映されています。(事前予約が必要)眼前にフルカラーの立体

映像が繰り広げられ、星々に手が届きそうで火星の山や谷を間近で覗いているような、そんな宇宙旅行気分が満喫できます。

## だれでも入会できる 「小さな天文学者の会」

理学部といっしょに「やまがた天文台」を運営している「小さな天文学者の会」は大学内に拠点を置くNPO法人。だれでも入会できる市民参加の会で、「宇宙を見て、感じて楽しもう。自然科学を市民の手に」をスローガンとしてさまざまな活動を行っています。たとえば、宇宙をテーマとする講演会の開催や「手作り望遠鏡を作って宇宙を観察」「星空教室」などの出前授業、宇宙についての基礎的な知識を学ぶ宇宙講座、街角観望会など。活動内容が幅広く、親しみやすいとあって、会員は小学生以上のすべての年齢層に広がっており、地域も全国へと広がっています。

## 全国へと広がりはじめた 山形発「星のソムリエ」

前述の星空案内人の愛称は“星のソムリエ”。美味しいワインを選ぶソムリエのよう

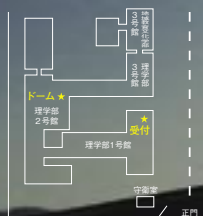
に星空の魅力を人々に伝えることを使命としているということのようです。星空案内人資格認定制度とは、山形大学の研究者と小さな天文学者の会が共同で創設した制度。もともとは、やまがた天文台で開かれる星空観察会のガイドを養成するために始まった講座が、今では星のソムリエを養成する資格認定講座として全国に広がり始めています。当初は山形大学の講座だけだったため、同じ東北地方の他県や関東地方からの参加者も少なくありませんでした。その後、評判を耳にした郡山市のふれあい科学館(福島県)や西はりま天文台(兵庫県)でも同様の講座が開かれるようになったのです。さらに、国立天文台(東京都)でも地元の三鷹市や周辺大学などで作るNPO法人「三鷹ネットワーク大学」と共同で養成講座をスタートさせるなど、全国5カ所にまで広がっています。

山形大学の講座がそうであるように、どの講座にも申し込みが殺到しているようで、書類選考や面接を行って募集人員まで絞り込んでいるところもあるようです。ちなみに山形大学では抽選により決定しています。

## やまがた天文台

Yamagata  
Astronomical Observatory

受付/山形大学インフォメーションセンター内  
小白川キャンパス理学部1号館隣のインフォメーションセンター。やまがた天文台の受付だけでなく、大学のさまざまな情報を得ることができる。天文台が誇るドームは理学部の屋上に設置されている。





「やさしい宇宙講座」には、さまざまな講義科目があり、宇宙について基礎的なことを学ぶことができる。



「やさしい宇宙講座」には実技科目もある。このような練習が必要な科目では講座とは別の時間をとって、技術を身に付ける。



少人数のグループに対して星空案内人(星のソムリエ)が星空ガイドツアーを実施。親切に教えてもらえるので星座がすぐ分かる。

### 星のソムリエ★星空案内人への道。 みんな星空が大好き、 だから、意外に広い 星空案内人の活躍の場。

山形で誕生した独自の星空案内人資格認定制度が全国へと広がりを見せているようですが、では、この資格を取得するとどんなことができるようになるのでしょうか。星空案内人の資格には、講座での勉強を一通り終えると比較的容易に取得できる準案内人と、実技試験にも合格し、実際に星空案内などの活動ができる案内人の2段階があります。準案内人でも、周囲の人に星空の魅力や宇宙の不思議などを伝えることは十分できますが、より本格的に星のソムリエとして活動するためには星空案内人の資格が有効です。公開天文台や学校、科学館、公民館、天文愛好会などが開催する星空教室、街角星空観察会などでボランティアとして活躍できるよう

になります。山形であれば「やまがた天文台」で毎週土曜日に実施されている星空ガイドツアーのガイドを務めることができます。また、蔵王ロープウェイからも夜間運転時の星空解説の依頼を受けています。これまでは冬期間はライトアップされていたのですが、せっかく星空がこんなに美しいのだから……、と「星空を見る会」に切り替わったのだそうです。

さらに意外なところでは、ホテルマンなどの接客業の人が、お客さまのために講座を受講したり資格が取れないかという相談がいくつかあったそうです。そう考えると、星空案内人の潜在ニーズはかなり多いと言えるのではないのでしょうか。

### ゼロからでも大丈夫。 星のソムリエに なるための3ステップ。

だれもが癒しを求める昨今、星空ニーズはますます高まりそうです。では、どうすれば星空案内人になれるのでしょうか。資格取得までの大まかな流れを見てみるとステップは3段階。まず、①「やさしい宇宙講座」を受講してさまざまな知識を吸収し、星空観察実習を受けます。天文学の知識や星座探し、小望遠鏡による観察の技能、星座物語などの

文化に関する知識など、星空の案内に必要な知識や技術は幅広く、奥深いのです。でも「やさしい宇宙講座」があるから大丈夫、まったくの初心者でもわかりやすく指導してくれます。②この講座で所定の単位を取得すると案内人の資格が得られます。③所定の単位を取得し、実技試験にも合格すれば、晴れて星空案内人の資格取得です。認定証書と実際の活動で使う認定証(写真入り名札)が授与されます。講座は原則、春と秋の2回。資格取得が目的ではなくても星空や宇宙について勉強したい方はどなたでも講座を受講することができます。

「さあ、はじめよう」から始まって、「望遠鏡のしくみ」「星座を見つけよう～星空観察入門」「屈折望遠鏡を使ってみよう」「反射望遠鏡を使ってみよう」「宇宙はどんな世界」「星空の文化に親しむ」など、星空や天体について多角的に学べる講義と実技の多彩なカリキュラム。改めて星空や宇宙への好奇心が刺激される「やさしい宇宙講座」。本当に初心者にも優しい講座のようです。

### ある日の講座に潜入! 年齢層も幅広く とても熱心な受講生たち。



**柴田 智平**  
しば たしんへい ●理学部教授/兵庫県出身。東北大学にて理学博士の学位取得。専門分野は宇宙物理学、高エネルギー天文学。NPO法人「小さな天文学者の会」の代表を務め、「星空案内人資格認定制度」運営の中心人物でもある。

おおかみ座の銀河/M81と呼ばれるきれいな渦巻き銀河。何千億という星々の集団。ガスやチリと星が渦巻いている。

プレアデス星団/日本名は「すばる」、西洋では巨人アトラスとニフのプレイオネの間に生まれたプレアデス7人姉妹とされる。

アレイ状星雲/太陽のような星が最期を迎えるところのようにガスを放出し星雲を作る。これは惑星状星雲と呼ばれる。

オリオン大星雲/オリオン座にあるでかたばかりの星の集団で肉眼でも芒洋とした光を確認できる。



**星空案内人をめざして受講中!**

鶴岡市の柳澤さん(60代)

「小・中学生の頃から宇宙が大好きでした。現在は案内人。案内人になったら、空気の澄んだ地でみんなに星の話を聞かせたいね。」

山形市の土田さん(20代)

「ラジオで星のソムリエの話聞いたのがきっかけ。難しいイメージがありましたが楽しく学んでいます。資格がとれたらボランティアをしたいと思っています。」

大崎市の佐藤さん(30代)

「星のことを知ってるほうが星空を見るのが楽しくなると。普段の会話の中で子どもや近所の人たちに星の魅力を伝えたいですね。」



柳澤さん



土田さん



4次元宇宙シアターでは、最新の天文学の成果をぎゅっと押し込んだデジタル宇宙を遊覧することができる。

「やさしい宇宙講座」は実際、どんな雰囲気で行われているのでしょうか。とある11月の講座をのぞいてみました。その日の講座は「屈折望遠鏡を使ってみよう」で、やまがた天文台にある口径15cmの屈折望遠鏡を使って、望遠鏡の仕組みや操作方法を実際に学んでいました。今回の講座では、この望遠鏡を自力で操作できるようになることが目標。コンピュータによる自動導入機能が使えるため、まだ見たこともない星々や星雲、銀河も簡単に観ることができるのだそうです。

この日の受講者は7名。あいにくの雨模様にもかかわらず、お隣宮城県からやって来たという受講者もいました。年齢層も20代から60代と実に幅広く、職業もさまざま、星空が好きということだけを共通点に集まった人々です。直径4mのドーム式の観察棟で屈折望遠鏡を実際に操作してみるという実技に緊張気味の受講生たち。電源の入れ方、キャップのはずし方、望遠鏡の向き、パソコンの操作方法など、講師陣が動作一つ一つについて丁寧に指導していました。受講生同士で相談をしたり、指摘し合いながら、一連の動作を反復練習。雨のため実際にドームを開くことはできませんでしたが、開閉した場合を想定しながら熱心に実習は繰り返されま

した。

**「星空案内人」本や4次元宇宙シアターなど話題豊富な天文台。**

星空案内人(星のソムリエ)の資格認定講座が「星空案内人になろう!」という本になり、星空や宇宙に関する広い知識をコンパクトにまとめた教科書として人気を集めています。著者は、山形で講座を担当してきたスタッフで、天文学者、科学館スタッフ、星空を楽しむ市民などの共同執筆。星空や宇宙に興味はあるものの資格取得までは考えていない、あるいは遠方で講座を受けることができそうもない、そんな人々にまで楽しく読んでもらえる内容になっているのが人気の秘密のようです。

一方、天文台ガイドツアーと並び、やまがた天文台の活動の柱となっている「4次元宇宙シアター」。こちらでもまたユニークな取り組みで注目を集めています。偏光を利用し、特殊な眼鏡を着用することでフルカラーの立体映像で宇宙の様子を見ることができ、太陽系から百億光年にまで広がる膨大な宇宙を体感できるシステムです。映像はすべて天文学者による研究結果を用いており、エンタ

ーテインメント性だけでなく、宇宙を理解するための強力なツールとなっています。このシアター体験自体、東北では唯一という大変稀少なものですが、やまがた天文台ではさらに、BGMや見せ方に工夫を凝らした『劇団4次元』による上映で宇宙映像を楽しませてくれます。

**自分自身が楽しみ、それを人にも伝えるというハッピー & ハッピー天文学。**

美しい星空を見上げれば、だれもがさまざまな思いを巡らすことでしょう。そこで星の明るさや星座のこと、宇宙のことなどを知っていれば、その時間はもっとハッピーになります。そして、自分自身が楽しむだけでなく、それを周囲の人に伝えることでその人もハッピーな気分を届けることができます。星空案内人にはそんな幸せが2倍になるパワーがあります。まずは、気軽に「やまがた天文台」を訪れてみてはいかがでしょうか。お問い合わせは、小白川キャンパス内の山形大学インフォメーションセンターで受け付けております。

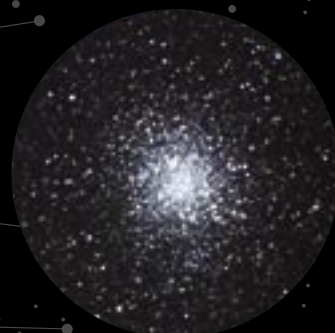
※4次元宇宙シアターは、国立天文台が4D2Uプロジェクトで開発されたソフトウェア Mitaka を使用しています。  
※星空案内人制度は全国の実施団体の代表からなる、星空案内人資格認定制度運営委員会によって運営されています。

馬頭星雲 / 黒く見える部分が馬の頭の形をしているのでこの名前がつけられた。暗黒星雲とも呼ばれる。

回転花火銀河 / おおぐま座にある渦巻き銀河で、特に腕がきわだってよく見えていて、そこでは新しい星がどんどん生まれている。

いて座の球状星団 / 数十万個の星がこうように球形に集まったものを球状星団という。非常に古い星の集団である。

かに星雲 / 太陽の10倍にもおよぶ質量を持つ星は最期に大爆発を起こす。これを超新星爆発と呼ぶ。



## 人文学部

Faculty of  
Literature and Social Sciences

### 「地域づくり特別演習」を実施しました



9月10日(月)～13日(木)の4日間に渡り、最上地方の金山町における1泊2日のフィールドワーク実習を中心とした、人文学部共通科目「地域づくり特別演習」を実施しました。3年目となる今年は、金山町西部の西郷地域にある漆野地区で、学生の視点から地域の価値を発見し、その活用法を考えるフィールドワークを行いました。

学生たちは地域住民の方々の指導の下、何気ない自然風景の中にある様々な貴重な地域価値を発見しました。またその後行

われた地域住民との意見交換会には大勢の方々が集まり、学生の発表の後地域の活性化に関する活発な議論が行われました。若者の視点は大きな刺激となったようで、改めて地域の良さを感じられた、地域価値を生かせば更なる活性化に繋がるのでは、といったご意見をいただきました。

この演習は金山町の地域活性化計画と連携しながら、来年度以降も同町各地域を回りながら実施されます。学生の視点がどのように生かされるのか期待されます。

## 山形大学教育学部OB・OGが 大学一日体験入学

### 地域教育文化学部

Faculty of  
Education, Art and Science



10月23日(火)、最上地域在住の教育学部OBら5名が、地域教育文化学部一日体験入学しました。

これは、教育学部から地域教育文化学部生まれ変わったのを機に、学生時代を過ごした大学に一日入学し体験するもので、平成17年度に続き、エリアキャンパスもがみ最上事務局(樋口事務局長)が企画し、地域教育文化学部同窓会最上支部を中心に募集が行われたものです。

一行は、インフォメーションセンターで

本学の最新情報を得た後に、飯澤学部長を表敬訪問し、和やかに歓談や記念撮影を行いました。次いで、「住居計画学」を受講し、今の学生たちとの暮らしの文化の違いについてOB・OGからご紹介いただき、学生たちにとっても良い機会となりました。その後、附属図書館、附属博物館、大学構内食堂での食事など、活気ある母校の様子を実感し、感激した面持ちで大学生活を楽しまれました。

## 理学部

Faculty of Science

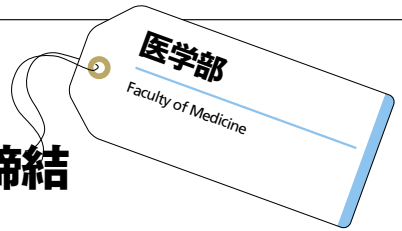
### 2007年度サイエンスフレンドシップ事業



10月25日(木)新庄市立沼田小学校でサイエンスフレンドシップ事業(エリアキャンパスもがみ)が行われました。昨年は、カメラと秤について、今年は、温度計について学びました。理学部(物質生命化学科)の教員と学生、県立新庄北高等学校の教諭と生徒、小学5年生(3クラス75名)が参加しました。午前中、体育館で小学生に温度計の歴史とその仕組みを演示実験と共に説明しました。物の体積が、温度によって変化することを液体窒素と風船を

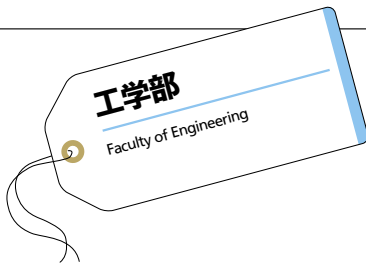
使って証明しました。大学生・高校生はクラス毎に小学生と昼食、昼休みはサッカーやドッジボールを楽しみました。午後はセロテープとアルミ箔で花を作る理科工作を行いました。バイメタル温度計の原理をまねたもので、花は温めると開き、冷ますと閉じます。放課後、今回の事業について反省会を開きましたが、来年も小・高・大の連携事業を行うことになりました。

## 大学院医学系研究科が、 がん治療専門家養成に関する協定を締結



10月16日(火)、本学大学院医学系研究科は、東北大学、福島県立医科大学と共に、がん治療専門家養成に関する協定を締結しました。これは、3大学が連携して南東北でのがん医療のレベル向上を目指す「東北がんプロフェッショナル養成プラン」(国のがん対策：平成19年度文部科学省がんプロフェッショナル養成プランに採択)をスタートさせるためのもので、本事業では3県の大学病院と全てのがん診療連携拠点病院が参加してがん医療人を育成するほ

か、大学、病院、自治体、機能団体が一体となって、臨床試験・がん登録を推進する地域の枠組み構築も計画しています。平成20年度から学生の受入を開始する新コース(出願受付：平成19年12月10日(月)～13日(木))は、大学間単位互換、大学・病院間連携、インターネットスクールの活用、社会人入学の推進、など従来の大学院教育の枠組みを超えた広域プロフェッショナル養成システムとなります。



## 第一回工学部 ホームカミングデイを開催

第一回ホームカミングデイは、去る10月20日(土)に米沢キャンパス中示範B教室において、150名以上の工学部OBの方々をお迎えして開催されました。東山副工学部長により開会が宣言された後、吹奏楽団・グリーンクラブによる学生歌斉唱、結城山形大学長、大場工学部長のあいさつがありました。次に、賓客としてご臨席賜った安部米沢市長、今井米沢工業会理事長からご祝辞をいただきました。最後に、米沢工業高等専門学校校歌を出席者一同で斉唱

し、オープニングセレモニーを終了しました。オープニングセレモニーに引き続き、本学部OBの株式会社「タカラ」創業者佐藤安太様から「生涯青春の人生」という題目で一時間の記念講演を賜りました。今回は第一回目ということもあり、宣伝が行き届かなかったにもかかわらず、多くのOBの方々にご出席を賜り、大成功裏に終えることができました。



## 地域に開かれた 『農学の夕べ』(=『食・環境特論』)を開講



今年度から再チャレンジ支援社会人特別選抜で大学院に入学された方々を対象に『食・環境特論』が新設されました。この講義は、多様な分野の農学部教員が現在の研究内容を紹介するものです。

現在、農学の対象は食育・有機農業・バイオテクノロジー・環境問題等々、非常に幅広く広がっています。先の特論は、地域の方に「農学」を広く知っていただく絶好のチャンスと考え、特論に『農学紹介講座・農学の夕べ』と別名を付けて、8月23日(木)から

12月13日(木)まで、毎週木曜日18時から90分間公開しました。

近所の方、仕事帰りのサラリーマン、高校生など、年齢層も様々な方々が受講しました。高校生の中には、山形大学農学部に入学を希望している方や、自分の進みたい進路を模索する為に受講している方などがいました。また、講義の最後には先生へ積極的に質問をしている様子も見られました。



# 日本近代文学の行間を読む。 虚構の小説や詩の中に 言葉の可能性を求めて。

中村三春 人文学部人間文化学科教授

宮澤賢治、太宰治、夏目漱石など、日本近代文学界を代表する作家たちが発した「言葉」に力点を置いた研究を行っているのが中村先生。宮澤賢治論に独特の解釈を唱えた著書『係争中の主体』と『修辭的モダニズム』が評価され、岩手県花巻市主催の第17回宮澤賢治賞奨励賞を受賞。先頃行われた授賞式に出席し、記念講演も行われた。中村先生の研究室では、多数の学生がそれぞれに傾倒する作家について研究を深めている。



## 『係争中の主体』 『修辭的モダニズム』

今回、中村先生が宮澤賢治賞奨励賞を受賞するきっかけとなった2冊の著書。賢治の作品は完成形ではなく、膨大な草稿として残されているという点に着目し、それぞれの段階での推敲・改稿に込められた意味を研究。賢治論に新たな境地を示したとして評価された。

宮澤賢治の言葉の巧みさ、  
美しさにひかれて注目。  
改稿に託された思いとは…。

「銀河鉄道の夜」「風の又三郎」「注文の多い料理店」などの著者として知られる宮澤賢治は、童話作家であり、農業指導者であり、科学者であり、熱心な法華経の信者でもあった。その多面性ゆえに人気を博したということもいわれているが、中村先生は、賢治の言葉づかいの巧みさ、美しさに

強くひかれたという。一般的な文学作品は、推敲、改稿を重ねることによって完成に向けて洗練していくものだが、賢治の作品の大半は草稿の状態のまま残されている。それを編集者が読みやすくして提供してくれ



中村三春

なかむらみはる ●人文学部教授  
／岩手県釜石市出身。東北大学文学部、同大学院に学び、東北大学助手、山形大学助教授を経て現職。専門は、日本近代文学、文芸理論、虚構理論、映像論、表象文化論など。現在「山新文学賞」の選者を務めている。

ているという点で、他の日本文学の作家作品と大きく異なっている。

そこで、筑波書房から発刊されているのが『新校本宮澤賢治全集』という全集篇と校異篇の2冊セット。校異篇には最終形にむけて賢治が綴ったさまざまな段階での推敲・改稿が収められている。同じタイトルでも中身が対立関係になるほど違っていたり、複数の作品から一つの作品が作られていたり、そんなプロセスに着目している。今回、中村先生が宮澤賢治賞奨励賞を受賞することとなった対象著書『係争中の主体』と『修辭的モダニズム』は、草稿それぞれのバージョンに込められた意味がどのような関係にあるかを調べ、まとめたものである。

『風の又三郎』に見る  
ハイパーテキスト的な宮澤賢治の世界。

数ある賢治作品の中でも特に知る人の多い「風の又三郎」を例にとって、賢治の草稿を読み比べてみると、初期形と後期形では

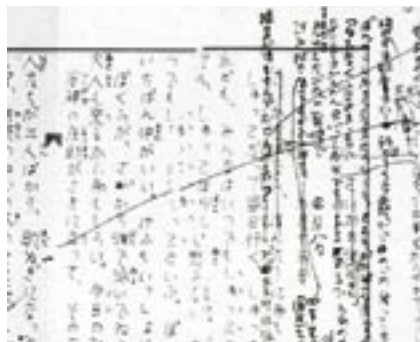


だれもが知っている賢治作品に  
新たな見方、解釈を見いだし、  
花巻市の「宮澤賢治賞奨励賞」を受賞。



全く内容が違っていることに気がつく。それはまるで、あるテキストをクリックすると全く別のテキストへと飛んでいく現代のパソコンによるハイパーテキストのよう。校異篇を読むと3つも4つも別のバージョンに出会うことになる。改稿・推敲を重ねた草稿だけを残すことで、賢治は自分の作品がこのような読まれ方をすることを予期していたのではないだろうかと中村先生は推測する。

また、賢治の草稿の中でも究極の書き換



宮澤賢治が書き綴った「風の又三郎」の原稿写真。かなり激しく書き換えられていることが分かる。(宮澤賢治記念館所蔵)

えといえる作品が「<sup>かいるせい</sup>薙露青」という妹の死を悼む挽歌ともとれる美しい詩。これは鉛筆で書かれて、消しゴムですべて消されているのだという。しかし、消されてはいても読める状態であることから、その詩の内容を肯定したとも、否定したともとれるという多義的な解釈を提起した。つまり、一つの言葉が一つのメッセージと結びついて単純に理解されるということではなく、肯定したとも否定したともとれる状態を創り出す、賢治の作品の言葉はそういった巧みさを持っているという点が重要なのだという。

**太宰治や村上春樹をはじめ、  
近現代日本文学の  
さまざまな作家を研究。**

今回の受賞によって宮澤賢治に関する研究がクローズアップされているが、中村先生の研究対象作家は幅広く、太宰治や村上春樹の研究においても高い評価を受けている。特に、村上春樹については、依頼を受けてお隣の韓国で講演を行ったほどであ

る。また、コミュニケーションの根幹である「言葉」を専門としているということから山形県と県内の全高等教育機関とで組織する「大学コンソーシアムやまがた」の総務運営委員会の委員長を務めている。さらに、大学間の単位互換等を遠隔地でも実践可能



大学間の単位互換等を実現するために、インターネットなどを活用したe-ラーニングシステムの充実にも力を注いでいる。

にするためにe-ラーニング推進室長としての任も受けている。本来の研究に加えて大学および地域全体の文化振興においても今後ますますの活躍が期待されているようだ。



# 山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、  
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。  
現役山大生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1

主に検体の前処理作業を行う実験台前の橋詰さん。取り扱う検体は血漿試料であるため、測定の前に試料の前処理が必要。適切な前処理条件を決定し、処理したサンプルは分析装置で測定して結果を判断する。



2

2

機器分析室にてサンプルを各分析装置で測定。奥に見えるのはLC/MS/MSという分析装置。定量法の開発においては、前処理条件もふまえて最適な定量法のメソッド(薬物をきちんと定量できるか)を確立していく。



3

3

東和薬品で製造されている医薬品の数々。錠剤やカプセル剤、消費者にとっては服用のしやすさもポイント。ジェネリック医薬品ということで効能や安心感はそのままだけに、より求めやすい価格となっている。

## たくさんの開発に携わりたいから、 医薬品のなかでもジェネリック医薬品に注目。

橋詰栄敏 東和薬品株式会社製剤研究所BEセンター勤務

探究の成果

高校の化学の授業が楽しかったから、と理学部物質生命化学科への進学を決めた橋詰さん。当初は、一般・専門ともに必要単位数の計算が面倒という理由から手当たり次第に講義を履修。その結果、かなりの単位が取れて後半はとてラクだったといいます。研究室では有機光化学を専攻、大学院修了時には医薬品メーカーを中心に就職活動を行っていました。そして、東和薬品に出会い、そこでジェネリック医薬品というものを初めて知ったのです。それまで医薬品はすべて数十年にもわたる長い研究開発を経て市場に出回るものと考えていました。ところが、ジェネリック医薬品の場合は、すでに有効性や安全性が確認された新薬に準じて開発されるため、一品目に対す

る研究開発期間が比較的短くてすむわけです。その分より多くの種類の医薬品開発に携わることができる、という点に橋詰さんは魅力を感じたのだそうです。

現在橋詰さんが担当しているのは、開発中の医薬品が先発品と同等であるか評価する「生物学的同等性試験」という業務。主に生体試料を取り扱い、試料の前処理法や分析条件などを設定し、定量法を開発して血中薬物濃度の測定を行っています。大学で学んだことが直接生かされるというわけはありませんが、必要な情報の収集、文献などの読み方、実験計画の立案といった基本となる部分は現在の業務に非常に役立っているそうです。そして、この仕事に特に厳しく求められるのが効率よく業務を進め

るということ。すべての進行中の品目には期限が決められており、それを過ぎてしまうと申請に間に合わなくなり、市場に出るのが遅れてしまうという事態を引き起こしてしまうからです。担当品目が増えればなおさら時間的な余裕がなくなってしまいますが、そんな時ほど自分の中で整理しながらひとつひとつ効率よくこなしていくことを心がけているといいます。

そんな橋詰さんが大学時代を振り返るとき、学業に限らず大学で経験したすべてのことが決してムダになってはいないと感じるのだそうです。だから、後輩のみさんには、ぜひいろいろなところに首を突っ込んで経験値を高めてほしいというメッセージをいただきました。

今回のランナー:



橋詰 栄敏

はしづめ ひでとし ●宮城県出身。2004年度大学院理工学研究科修了。専門は有機化学で、現在は医薬品メーカー勤務。分野は少し違うが、情報収集能力や実験計画の立案力が今の仕事に生かされている。



川原 誉史

かわはら もとし ●北海道北斗市出身。環境問題への強い関心から農学部生物環境学科に進学。卒業論文では住民による資源回収の方法をまとめた。エコ・キャンパス推進委員会の発起人。

## 意識を変えればゴミも資源に変わる。 ここ農学部から、地域や他のキャンパスへ発信したい。

活動の成果

川原 誉史 大学院農学研究科1年

人が大勢の集まるところにはゴミもたくさん発生する。もちろん、大学も例外ではなく、そのゴミの処理には多大な費用がかかっている。そんな現状に一石を投じるカタチで注目を集めているのが、川原さんが創設し、初代委員長を務めた「エコ・キャンパス推進委員会」(現・委員長は松崎真央里さん)。川原さんは、卒業論文でまとめた資源回収の方法を実践してみようとして農学部長に提案したところ、全面的な協力が得られることになり、2006年の11月に委員会を設立。翌年の1月から本格的な資源回収を実施し、ゴミ処理費用の削減と回収資源の売却益を得るという2大成果を挙げている。

川原さんは、大学院生となった現在も時間の許す限り委員会の活動に参加してい

る。学生が集まる校内5カ所にアルミ缶やスチール缶、ペットボトルなどを分けて入れる資源回収ポストを設置。大学設置のゴミ集積所とは別に資源回収ステーションを開設し、新聞・雑誌、ビンなどの分別排出を呼びかけている。さらに、“混ぜればゴミ、分ければ資源”という意識づけを目指して、分別方法をわかりやすく解説したチラシの配布活動なども行っている。現在の実働メンバーは10名ほどで、まだまだ人手不足。ゴミの削減や資源回収、リサイクルのためのアイデアは豊富にあってもなかなか実施しきれないのが実状のようだ。そんな中でも、春のオリエンテーションや秋の大学祭などで開催しているバザーは活気に満ちている。卒業生や移行生から不用に

なった品々を譲り受け、格安で販売しているのだ。ある留学生の家財道具一式がそろってしまったというくらい品揃えは豊富で、学生たちはもちろん、周辺住民からの期待も大きいという。ある人にとっては不用になってしまったものが別の人には必要な物だったりもする。このバザーは粗大ゴミの不法投棄防止にも大いに貢献している。

創設からわずか1年、「エコ・キャンパス推進委員会」は着実に何かを変えた。資源回収を通して東北公益文科大学との交流も始まっている。「この取り組みをより充実させて、周辺地域へ、さらに小白川や米沢のキャンパスへと広げていきたい」と、川原さんのエコ計画はすでに次なるビジョンを見据えている。



1 資源回収ポストに集まった缶やペットボトルをチェックする川原さんと後輩メンバーたち。こうした地道な作業が資源回収には不可欠。当初はあまり協力的ではなかった学生の間にも分別意識は浸透しはじめています。



2 エコ・キャンパス推進委員会では、学生たちがたくさん集まる場所にはこのように資源回収ポストを設置して分別を促している。ようやく資源やリサイクルという意識が浸透し、徐々に分別も徹底してきている。



3 大学祭で開催したバザーの様子。今回も学生や留学生、地元の人々などで大いににぎわい、卒業生から提供してもらったモノが次々に売れていく盛況ぶり。モノのリユースを通じてエコを考えるいい機会となっている。

# エリアキャンパスもがみ もがみめぐり



シリーズ① 新庄市

「エリアキャンパスもがみ」は、最上地区8市町村の豊かな自然環境を教育・研究・地域連携に生かそうと平成17年4月にスタートした大学と地域の新しい連携モデルです。最上広域圏全体をキャンパスに見立て、さまざまなフィールドワークや地域住民と教職員・学生との交流などを展開。山形大学のキャッチフレーズである「地域に根ざし、世界をめざす」やテーマとしている「自然と人間の共生」を具体的な形として実践しています。この「もがみめぐり」シリーズでは、毎回、一つの市町村をピックアップ。その地域の魅力とそこでの活動内容をご紹介します。



最上地区8市町村の中核となる新庄市は、山形新幹線の終着地。8月下旬に行われる「新庄祭り」は、東北の夏祭りを締めくくるにふさわしい豪華絢爛な祭典としてとも有名です。一方、新庄の冬は厳しく、県内でも有数の豪雪地帯であることから「防災科学研究所」が置かれ、さらに、雪にまつわる興味深い情報を発信する、全国でも珍しい資料館「雪の里情報館」があります。また、岩手県遠野市と並ぶ東北随一の民話の宝庫ということで、町中では、「笠地蔵」や「こぶとり爺さん」などのモニュメントを目にすることができます。鶏もつラーメンなど食文化にも独特の個性があり、東山焼き、亀縁織などの伝統工芸はしっかりと受け継がれています。

学生の人間形成と地域の人材育成を相乗的に活性化するための展開されている「もがみ未来遺産プロジェクト」。平成19年度、新庄市では5つのプログラムが実施されました。

- ・「作陶に挑戦！」新庄東山焼きの世界
- ・「日本一の新庄祭り」  
～山車作りと祭り囃子に挑戦！～
- ・体験「民話のふるさと新庄」  
～その風土と心原風景を探訪する～
- ・体験「ごまかしのない食品づくりに挑戦！」
- ・「達人に学ぶ」街の活性化II

新庄東山焼きは、160年以上の歴史を誇る伝統ある窯。5代にわたって受け継がれてきた作陶の技に触れ、陶芸の歴史や理論を学ぶ講義と実践を通して、陶芸の醍醐味を実感。また、250年の歴史を誇る新庄祭りでは、その歴史の名所旧跡（やたい）をめぐるとともに、祭りに欠かせない人形の制作や山車作り、祭り囃子などの伝承文化を観賞・体験。単なる観光とは違った視点で新庄祭りの魅力を発見。さらに、体験「民話のふるさと新庄」では、長い時間をかけて語り継がれてきた民話（昔話、伝説）をかけがえのない無形の文化遺産と捉え、その伝承、普及、活用の現状を見聞体験。講義、見学、実習などを通して、地域における伝統文化の継承活動のあり方を探究。一方、体験「ごまかしのない食品づくりに挑戦！」では、地元企業の協力のもと、消費者の立場と生産者の立場、その両面から「ごまかしのない食品」に対する理解を深め、実際に食品製造の実演・実習を体験しました。

新庄市にはエリアキャンパスもがみ最上事務局があり、最上広域圏連携タウンミーティング、地域活性化シンポジウムなどもここ新庄で開催されています。

## 新庄の歴史や伝統にたっぷり触れて、 学生たちはさまざまな収穫を胸に大学に帰ってきます。



## Areacampus MOGAMI SHINJO

1「作陶に挑戦！」で伝統ある新庄東山焼きでの陶芸体験。2「日本一の新庄祭り」で大正町の山車の飾り制作を手伝う学生たちの必死の姿。3「達人に学ぶ」のプログラムで新庄市内の商店街を視察。4「民話のふるさと新庄」の活動。ふるさと歴史センターでの民話語りを見学。5「やってきました大学祭」にて、来場者に農学部の農場で生産されたトマトをプレゼント。6体験「ごまかしのない食品づくりに挑戦！」では、市内の製館所を見学し、製館機の仕組みを学ぶ。



## 1 中国ハルビン工業大学で「異文化間コミュニケーション演習」による研修・交流を実施

9月3日(月)から14日(金)までの12日間にわたり、人文学部の学生12名と教員・職員4名が中国のハルビン工業大学を訪問し、人文学部授業科目「異文化間コミュニケーション実習」としての研修および交流を行ってきました。これは、本年3月に山形大学人文学部とハルビン工業大学外国語学院が教育・研究に関する学部間協定を締結したことに基づく、交流の第一歩と位置づけられるものです。

ハルビン工業大学での滞在中は、ソ



ハルビン市内にて

フィスカヤ寺院や中央大街、731部隊跡の見学や、日本語科の授業に参加したり、中国語講座を受講したりなど、外国語学院日本語科のスタッフや学生のみなさんのきめ細かいサポートのおかげで、充実した研修を送ることができました。日本語科の学生のみなさんには、お金を両替したり、外食をしたり、買い物をしたりなど、研修以外の生活上のさまざまな面で援助をしていただきました。

9月13日(木)には、日中学生合同発表会と題し、日中双方の学生または学生グループがそれぞれ3組ずつ研究発表を行いました。日本側の発表テーマは、「日本人の感覚から見た中国」「松尾芭蕉の俳句と世界観」「日本のオタク文化について」で、中国側の発表テーマは、「中国の少数民族について」「北京オリンピックについて」「中国の美食文化について」でした。日本側の3グループのうちの1組は中国語での発表を行い、大きな拍手



日中学生合同発表会

を浴びていました。発表会には100名以上の学生や先生方が集まり、大いに交流を深めることができました。

学生の交流以外にも、双方の教員のあいだで国際共同研究のための打ち合わせが行われたり、学部間の交流から大学間の交流へと発展させるための話し合いなども開かれました。今後とも両大学間の交流がますます盛んになっていくことが期待されます。

## 2 JICA 青年研修「アフリカ仏語圏理数科教育」コースの研修を実施

山形大学で11月8日(木)から21日(水)の間、アフリカ仏語圏(コートジボアール・ベナン・ブルキナファソ・ルワンダ)から23名の理数科教育に関係する中・高等教育関係者を青年研修として受け入れました。研修の内容を時系列に並べることにより紹介したいと思います。

- 8日(木) 来県、学長表敬訪問
- 9日(金) 午前:講義「日本の理数科教育」(地域教育文化学部)  
午後:米沢での国際交流
- 10日(土) 国際交流(米沢)
- 11日(日) 午前:講義「蔵王温泉の地質」(理学部)、午後:天体望遠鏡製作(小さな天文学者の会)望遠鏡指導、日本とアフリカの星座(理学部)
- 12日(月) 午前:県立山形南高等学校視察  
午後:山形県教育センター視察
- 13日(火) 化学実験研修(理学部)
- 14日(水) 附属中学校視察(数学・理科授業見学)
- 15日(木) 生物実験研修(理学部)
- 16日(金) 鮭川村熊谷園芸見学、最上教育研修センター視察、新庄市ふるさと歴史センター、雪氷研究所新庄支所見学、戸沢村交流会



DNA抽出実験

- 17日(土) 最上川くだり、戸沢村角川「里の自然環境学校」活動紹介、ピオトープ、里山見学、郷土料理教室
- 18日(日) 角川小中学校視察、ものづくり体験(17日(土)・18日(日)は、エリアキャンパスもがみの教養教育との同時開催)
- 19日(月) 山形市立鈴川小学校視察(理科授業見学、5年生総合学習に参加、先生との交流、意見交換)
- 20日(火) アクションプラン作成と発表、評価会、終了式
- 21日(水) 離県

一人の病氣怪我もなく終わることができました。講義を担当していただいた

方々から「みんな、まじめにメモをとりながら話を聞き、非常に熱心だった。質問も多く、答える方もいろいろと勉強になった」と好意的なコメントをいただきました。彼らは、日本の設備が充実していることや、その教育システムや授業の進め方を参考に自国に帰ってからのアクションプランを立てました。また、現場の先生方との交流は日本とアフリカの教育現場の問題を共有化することができ、日本の先生方にも非常にためになったようでした。県内の多くの皆様にご協力いただき無事終了することができました。ありがとうございます。



総合学習(国際理解)に参加

## 入学試験

### 学部

#### (1)大学入試センター試験

試験日/1月19日(土)~20日(日)  
試験会場/山形大学小白川地区試験場(山形市)  
山形大学工学部試験場(米沢市)  
鶴岡中央高等学校試験場(鶴岡市)

#### (2)個別学力検査等

##### ●全学部

出願受付期間/1月28日(月)~2月6日(水)  
前期日程/2月25日(月)~27日(水)  
後期日程/3月12日(水)

#### (3)大学入試センター試験を課す推薦入学(推薦入学Ⅱ)

##### ●理学部(山形市)

数理科学科、物質生命化学科、生物学科、地球環境学科

出願受付期間/1月21日(月)~24日(木)  
入学試験/2月2日(土)

##### ●工学部Aコース(米沢市)

電気電子工学科、情報科学科  
出願受付期間/1月21日(月)~24日(木)  
入学試験/2月2日(土)

#### (4)私費外国人留学生試験

##### ●人文学部、地域教育文化学部、理学部(山形市)

出願受付期間/1月21日(月)~24日(木)

##### ●医学部、工学部Aコース、農学部

出願受付期間/1月28日(月)~2月6日(水)

##### ●人文学部(山形市)

入学試験/2月12日(火)

##### ●地域教育文化学部(山形市)

入学試験/2月25日(月)・26日(火)

##### ●医学部(山形市)

入学試験/医学科 2月25日(月)  
看護学科 2月26日(火)

問い合わせ/学務部入試ユニット

TEL 023-628-4141

### 大学院

#### (第2回選抜、第2次募集、学部3年次を対象とする特別選抜)

##### ●社会文化システム研究科(山形市)

出願期間/1月7日(月)~9日(水)  
入学試験/2月13日(水)

##### ●教育学研究科(山形市)

出願期間/12月18日(火)~20日(木)  
入学試験/1月28日(月)

##### ●理工学研究科(理学系)(山形市)

出願期間/1月7日(月)~10日(木)  
入学試験/2月27日(水)・28日(木)

##### ●理工学研究科(理学系・学部3年次)

(山形市)  
出願期間/1月7日(月)~10日(木)  
入学試験/2月27日(水)・28日(木)

##### ●医学系研究科

##### (医学専攻・生命環境医科学専攻)(山形市)

出願期間/12月10日(月)~13日(木)  
入学試験/1月10日(木)

##### ●医学系研究科(看護学専攻)(山形市)

出願期間/12月14日(金)~20日(木)  
入学試験/1月8日(火)

##### ●理工学研究科(工学系・学部3年次)

(米沢市)  
出願期間/3月5日(水)~7日(金)  
入学試験/3月14日(金)

##### ●農学研究科(鶴岡市)

出願期間/1月4日(金)~7日(月)  
入学試験/1月23日(水)

問い合わせ/学務部入試ユニット

TEL 023-628-4141

## 式典行事

### 平成19年度 学位記・修了証書授与式

##### ●農学部

日時/3月17日(月)  
場所/東京第一ホテル鶴岡(鶴岡市)

##### ●工学部

日時/3月22日(土)  
場所/米沢市営体育館(米沢市)

##### ●人文学部、地域教育文化学部、理学部、医学部

日時/3月25日(火)  
場所/山形県民会館(山形市)



## 卒業研究発表会

### 平成19年度卒業研究発表会

#### 工学部

##### ●機能高分子工学科

日時/2月15日(金)・16日(土) 9:00~16:30

場所/伝国の杜(米沢市)

内容/卒業研究の成果をミニプレゼンテーションとポスターセッションによる発表

対象/大学生、高校生、一般の方

入場料/無料

問い合わせ/工学部機能高分子工学支援室

TEL 0238-26-3100

##### ●大学院ものづくり技術経営学専攻

日時/2月23日(土) 13:00~17:30

場所/伝国の杜(米沢市)

内容/修士学位論文公聴会

対象/大学生、高校生、一般の方

入場料/無料

問い合わせ/MOT 佐藤

TEL 0238-26-3621

#### 農学部

毎年3つの学科が公開卒論発表会を行っています。受験を考えている高校生、アイデアの種を探している企業の方々、農学に関心をもつ地域の方々など、実際に行われている研究を見聞できる好機ですので、ぜひおいでください。

入場料/無料(予約不要)

\*プログラムなどの詳細は日程が近づいたら農学部HPで紹介いたします。

##### ●生物生産学科

日時/3月6日(木) 13:00~17:00

場所/グランドエルサン(鶴岡市)

発表形式/ポスター発表

問い合わせ/学科運営協力室

TEL 0235-28-2901

##### ●生物資源学科

日時/2月19日(火) 9:00~16:00

(13:00~15:00は学生が来訪者の質問に直接答えます。)

場所/3号館

発表形式/ポスター発表

問い合わせ/学科運営協力室

TEL 0235-28-2819

##### ●生物環境学科

日時/2月19日(火) 地域環境科学講座

20日(水) 森林環境資源学講座

両日とも9:00~17:00頃(詳細はHP)

場所/3号館301教室

発表形式/口頭発表

問い合わせ/学科運営協力室

TEL 0235-28-2843

山形大学の行事・催事のご案内です。  
地域に根ざした大学としてみなさんのご参加をお待ちしています。

## 公開講座等

地域教育文化学部・理学部

### 小白川キャンパス トワイライト開放講座 (後期開講分)

	地域教育文化学部	理学部
日時	平成19年10月～平成20年2月 毎週水・木曜日 毎週金曜日 16:30～18:00	
場所	地域教育文化学部	理学部

講義内容／【地域教育文化学部】

発達史地形学、美術科教材研究A

【理学部】サイエンスセミナー

対象／高校生

(理学部は一般の方にも開放しています。)

受講料／無料

その他／詳しい講義内容は、各学部HP等をご覧ください。講義開始日、休講日等にもご注意ください。

問い合わせ／学務部修学支援ユニット

人文学部担当

TEL 023-628-4709

理学部

### 小さな科学者・体験学習会 「マイナス200度の世界」

日時／3月(予定)

場所／理学部

対象／小学4年生～中学生(定員20名)、  
およびその保護者

受講料／無料

問い合わせ／理学部物理学科 遠藤研究室

TEL 023-628-4561

※詳細については、2月頃に理学部HP掲載予定です。

医学部

### 院内教育・訓練講演会 重イオン線治療の現況

日時／1月15日(火) 18:00～

場所／医学部大講義室

対象／教職員、一般の方

受講料／無料

問い合わせ／医学部高度先進推進

事務ユニット

TEL 023-628-5022

やまがた天文台

### 火星を見よう

「やまがた天文台」一般公開

日時／毎週土曜日 18:00～

場所／やまがた天文台(理学部2号館屋上)

対象／一般の方

参加費／200円

問い合わせ／平日(9:00～17:00)

インフォメーションセンター

土曜日・夜

「やまがた天文台」受付

TEL 023-628-4050

※火星は11月下旬から1月上旬に見えます。

そのほかの星々、星座の解説があります。

工学部

### 親子で参加する

#### 未来の自分探しツアー

日時／1月4日(金)～6日(日) (2泊3日)

場所／山形大学小白川キャンパス、県内企業  
など

宿泊場所／黒沢温泉(山形市)

対象／山形県内中学・高校生とその保護者

参加費／無料

その他／詳細は工学部HP等でお知らせします。

問い合わせ／工学部事務ユニット

学生サポートチーム

TEL 0238-28-3013



国際センター

### 留学生による日本語発表会

日時／2月13日(水) 10:00～16:00

場所／小白川キャンパス

対象／教職員、学生及び一般の方

参加費／無料

問い合わせ／国際センター

TEL 023-628-4927



## キャンパスイルミネーション

### 小白川キャンパス イルミネーション

小白川キャンパスの正門正面にある大銀杏2本にイルミネーションを施し、彩り豊かにキャンパスを装飾します。地域に根ざした大学として市民の方々に広くキャンパスを開放いたします。

期間／12月11日(火)～1月20日(日)

点灯時間／16:30～21:00



### 工学部キャンパス内の イルミネーション

工学部正門から附属図書館工学部分館までのケヤキ並木と生協前広場が約4万個の電飾(オレンジ色の電飾、青と白の発光ダイオード)で華やかに彩られます。

期間／12月1日(土)～2月29日(金)

点灯時間／16:00～24:00

## イベント協賛

### 上杉雪灯籠まつり協賛



今年も、工学部の学生ボランティアと職員で工学部前の歩道及び工学部正門から附属図書館工学部分館までのケヤキ並木に雪灯籠・雪ぼんぼりを作ります。また、重要文化財(旧米沢高等工業学校本館)もライトアップします。

日時／2月9日(土)・10日(日)の2日間

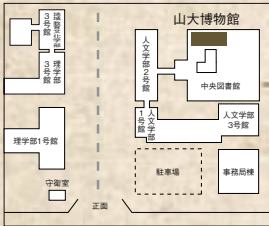
その他／工学部駐車場を一般に開放します。

# 山大博物館

YAMADAI MUSEUM

## シリーズ①

山形大学附属博物館の  
収蔵品をはじめ、  
大学が誇る貴重な資料を  
紹介いたします。



附属図書館及び附属博物館は学外の方も  
ご利用いただけるように開放しております。  
利用方法等は図書館カウンターにお  
申し出ください。知的宝物がいっぱいの  
附属図書館・博物館に是非お越しください。

土偶は、縄文時代、土をこねて人の形を模して形作りそれを焼いたものです。土偶の性別のほとんどは女性と考えられていますが、それは女性の生殖機能を強調してあるもの、身ごもった女性を表したものが多く見られるからです。前者は豊穡の願いが込められたもの、後者は安産・多産を祈ったものだとされています。また、祭祀などの際に、破壊して災いをはらったりする役目があったという説もあります。呪術に用いられた土偶には、土偶に悪霊を封じこめる意味合いもあったのでしょうか。

さて、本館所蔵のこの土偶ですが、頭部の左右が髪の毛を結び上げているようにみえることから「結髪土偶」と呼ばれています。欠損した脚部と腰の間から胴体の部分が空洞になっているのが

確認できますが、このような構造は「中空土偶」といわれ、土器を作るのと同じように土を輪積みして作られたものです。

体の各部分を上から観察していきましょう。静かに閉じられた目、小さな鼻と口、そして耳には穴が開けられています。胴体上部の微かな盛り上がりは乳房、真ん中には上下に正中線が走っています。模様として一番特徴的なのは赤で彩色された沈線で、肩から胸、そしてこめかみから髪の毛の先端までつながっているのが見えます。

写実的なものは排除され、抽象的かつ誇張された土偶には、単純化されている分なおさら私達の想像をかきたてるものがあります。土偶の役割に想いを馳せながらこの土偶を観ていると、目を閉じて多少小首をかしげた土偶が過ぎた悠久の時間まで見えてくるような気がします。



高さ15センチ 肩幅16センチ  
寒河江市石田遺跡出土 縄文時代晩期

## 結髪土偶

## 編集後記 Editor's Note

歳王の山並みも早くも雪化粧となり、例年通りの冬の寒さを予感させる季節となった。世情に目を向けると国と地方の財政の逼迫は相当のもので、こちらは雪解けの目途は立っていないようだ。財政再建のためには歳出削減と財政の効率化を強力に推し進めていく必要があることには論を持たないが、単に金銭収支のみを目的とした政策が前面に出ると、逆に人々の心の中には金銭至上主義がはびこってくるのはひとつの社会現象であろうが、仕事の遅り甲斐、使命感、尊敬よりも、QOLを重視して程々の高収入を得ればよいという風潮。昨今、医療の現場でも勤務医の厳しい労働環境が取りざたされている。診療科間格差が背景にあると言われているが、生命に直接に関わる診療科(=3Kであるのは事実)への希望者が激減している。“割に合わない”分野と言われてしまえば反論は出来かねるが、若者にそう感じさせる金銭至上主義の世情と人々の心の中が根本的な問題だ。山形で学び働く者達には、高い志を忘れないで欲しい。  
(広報委員会委員 貞弘光章)

表紙のことば

毎週土曜日に「やまがた天文台」で実施されている天文台ガイドツアーでの一コマ。参加した小学生の兄妹がうれしそうに望遠鏡をのぞき込んでいる。星や月の話に、宇宙の神秘、星空案内人が夜空の世界へと誘ってくれる。

- この「みどり樹」は下記URLからもご覧になれます。  
URL : <http://www.yamagata-u.ac.jp/html/kouhoushi.html>
- 「みどり樹」に対するご意見・ご質問等をお気軽にお寄せください。  
E-mail : [sombun@jm.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:sombun@jm.kj.yamagata-u.ac.jp)
- 「みどり樹」は、3月、6月、9月、12月に発行する予定です。

—地域に根ざし、世界を目指す—

山形大学  
Yamagata University

山形大学ホームページ <http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>